

わら筆のことなど

滝沢 具幸

東京国立博物館で長谷川等伯展が開催されている。等伯といえば、有名な「松林図」を描いた画家である。「松林図」は六曲一双の屏風絵で、左右に広がる7メートル余の広い空間に朝霧の立ち込める松林が幻想的に描かれている。墨色の濃淡を生かしたこの水墨画は、松の姿が霧の中から立ち表れてはまた消えてゆく様子が躍動的に表現されている。

先日、ある雑誌社から松林図の描法は再現できるか、との問い合わせがあった。松の葉の部分は藁の筆を用いて描いたと言われているが、その高度な技法で描くことはなかなか難しいことである。藁筆は等伯だけでなく江戸時代には狩野探幽や海北友松などの作品にもかなり用いられているようである。等伯はその松を描くとき、藁

筆のやや硬い先端をはね上げるようにして描いたのだと思われる。手首を柔軟に動かし滑らかに描くという筆使いが必要である。

あるとき、偶然にも当時のような藁筆を製作している人を知り、その藁筆を頂戴した。筆の穂先は「みご」と呼ぶ藁の芯を取り出して作るとのことである。丁寧に一本一本の「みご」を束ねてあり、軸の部分は竹の皮を巻いた美しいものである。自然の素材を見事に生かして墨を付けることがためらわれる程すばらしい手わざである。等伯や探幽の描いた雄々しい筆法で飯田美博の安富桜の樹幹を描いたらどのようになるのか想像してみた。安富桜の堂々とした姿を描くにはさぞ肩に力が入ることであろうと思う。

さて、当館ではこの3月下旬、桜の蕾も開く頃から飯田領主「堀侯」展を開催する。この展示は「飯田お練りまつり」に協

賛して開かれるものである。堀氏は江戸初期から200年にわたって飯田領主として飯田繁栄の基礎を築いた大名である。信濃奥地と東海道筋を結ぶ「かなめ之所」としての豊穡の地であった飯田、その領主堀侯のことを知る人は意外と少ない。

本特別展では「御三霊」（飯田堀家の始祖秀政と親良、親昌）を祭神として祭る長姫神社の宝物をはじめ、江戸末期、老中格ともなった十代親審のことなど堀侯に関連した資料を展示する。今展で堀侯を偲びながら、黒い藁と白い漆喰の壁に彩られた小京都飯田の往時の姿を想像してみるのも楽しいことであると思う。

● インフォメーション ③→⑥月 ●

● 美術博物館		お問い合わせ: 0265-22-8118
◎ 特別展		お練りまつり 大名行列 3/27(土) 11:20~
信州飯田領主堀侯	3/20(土) → 5/9(日)	お練りまつり 神代鹿島踊り 3/27(土) 11:20~・13:30~
◎ 企画展		◎ バスポート会員向け特別解説会
第7回 藤本四八写真文化賞 受賞作品展	5/29(土) → 6/13(日)	信州飯田城主堀侯展 4/16(金) 19:00~
◎ 平常展示		◎ 子ども博物館くらぶ
風雅の町・飯田 1	5/15(土) → 6/13(日)	科学工作教室
風雅の町・飯田 2	6/25(金) → 7/25(日)	・三極モーターを作って車を走らせよう 6/26(土) 9:45~
景德鎮からの風	5/15(土) → 8/29(日)	宇宙をのぞこう - 親子で学ぶ天文講座・星空観察会 -
◎ プラネタリウム		・土星と夜桜を見よう 3月下旬~4月上旬 19:00~ (夜間開館に合わせて開催)
春の番組「アラジンの大冒険」	3/6(土) → 6/13(日)	・「月と金星」の話と観察 5/15(土) 講座15:00~ 観察19:00~
夏の番組「新作(未定)」	6/26(土) → 9/19(日)	◎ ミュージウムコンサート
◎ 文化講演会		クリスティーン ワレフスカ 2010コンサートツアー
旧飯田お練り祭屋台の構造とその装飾彫刻	3/22(月) 13:30~	5/15(土) 開場18:00~ 開演18:30~
◎ 自然講演会		◆ 臨時休館日 5/11(火) - 14(金)・6/15(火) - 24(木)
雌と雄はどのようにできたか?	5/23(日) 14:00~	
◎ 自然講座		
伊那谷の活断層と災害をどうみるか	4/17(土) 13:30~	
変化していく雑草たち	4/22(木) 19:00~	
鉾山遺跡の保存と活用	5/15(土) 13:30~	
鳥の鳴き声調査と身近な鳥たち	5/22(土) 13:30~	
トンネル計画のための地質調査	6/5(土) 13:30~	
「希少種はいま」~ 県南の取材現場から	6/12(日) 13:30~	
◎ 美博文化講座		
堀家『御三霊』の生き方	4/3(土) 13:30~	
堀親審・親義父子の国際意識と対応	4/18(日) 13:30~	
飯田の文化風土を支えた経済力と政治	5/4(火) 13:30~	
イロイロな仏像の“色”の話	5/25(日) 19:00~	
◎ 見学会		
飯田城をめぐる	4/10(土) 9:30~	
堀侯ゆかりの飯田城周辺地をめぐる	4/24(土) 9:30~	
◎ 特別講演		
桜丸御門開門と大名行列	3/20(土) 9:00~	
● 上郷考古博物館		お問い合わせ: 0265-53-3755
◎ 企画展		
発掘された飯田城と城下町	3/20(土) → 5/9(日)	
◎ 速報展		
発掘された古代の飯田 2010	5/22(土) → 7/4(日)	
◎ 展示講座		4/18(日) 10:00~
◎ 発掘調査報告会		6/12(土) 13:30~
◎ ぎやまん工房		4/25(日)・6/9(木) 9:30~
◎ 玉造部の会		5/23(日) 9:30~
◎ 追手町小学校 化石標本室		お問い合わせ: 美術博物館へ
◎ 公開日		3/28(日)・4/25(日)・5/2(日)・4(火)・5/30(日) 10:00~16:00
◎ 化石クリーニング		5/2(日)・4(火) 10:00~16:00
◎ 化石レプリカ作成		4/25(日)・5/3(月)・30(日) 10:00~16:00

テラス 2010 Vol. 084 発行日/2010年3月20日 印刷/龍共印刷株式会社 発行者/飯田市美術博物館 〒395-0034 長野県飯田市追手町2-655-7 TEL 0265-22-8118 URL http://www.iida-museum.org/



テラス

◎ 飯田市美術博物館 ニュース ◎

IIDA CITY MUSEUM NEWS "TERRACE" Vol.084
http://www.iida-museum.org/



飯田お練りまつり協賛特別展

信州飯田領主 堀侯 —日本を動かした郷土の外様大名— ① 3/20(土) → 5/9(日)

信州飯田は、武田信玄が飯田城を伊那郡支配の拠点として以来、当地方の中心として栄えた城下町です。武田家・織田信長滅亡後、徳川家康の伊那郡代菅沼氏が飯田城主となりましたが、天下統一後に豊臣秀吉が毛利秀頼・京極高知を配置しました。「関ヶ原の戦い」後は、豊臣秀吉の取立大名小笠原秀政・脇坂安元・安政(安吉)から堀氏へ替わりましたが、いずれも豊臣系大名でした。飯田堀氏は、寛文12年(1672)から明治4年(1871)まで十二代200年間にわたっての飯田城主でした。二万石前後の外様小大名でありながら、その家格は高く評価されていました。それは飯田堀家の始祖堀秀政とその子親良(秀家)が、戦国時代末期の「天下統一」と「江戸開府」に向けた日本史の躍動期に、織田信長・豊臣秀吉に仕え、徳川家康も一目置く存在だったからです。親良の子親昌は疲弊した飯田領を「東海道より信濃への入口」「かなめ之所」と見抜き、再建の基盤を築きました。



① 山崎合戦図屏風(左隻)

また、江戸時代後期から「明治維新」にかけて、十代親審は徳川斉昭の推挙で若年寄・將軍御側用人・老中格・老中勝手掛などを歴任して「天保の改革」に中核的役割を果たしました。その子十一代親義は最後の將軍徳川慶喜(斉昭の子)から篤く信頼された側近として、「明治維新」の動乱期に重要な役割を担いました。この度の特別展では、「御三霊」(秀政・親良・親昌)を祭神として祭る長姫神社の宝物をはじめ、堀侯に関連した資料を展示し、あわせて飯田藩士の子菱田春草をはじめ飯田藩にゆかりのある人物(太宰春台・柳田國男の養父柳田家・金座改役後藤三右衛門など)も紹介します。こうした人物たちの活躍を振り返ること

で、今後の地域づくりのヒントを得る一助になればと願っています。なお、会期中(3月26~28日)には、「飯田お練りまつり」が開催されることから、城下町飯田が繁栄した象徴であるこの祭りについても取り上げます。



① 堀親審公所用甲冑

上郷考古博物館 平成22年度速報展

発掘された古代の飯田 2010 ② 5/22(土) → 7/4(日)

【発掘調査報告会 6/12(日) 13:30~16:00】

2007・2008年度に発掘された市内の遺跡について、市民の皆さんにご紹介する展示です。発掘調査中に開催される現地見学会で、掘り出された住居の跡や土器などをご覧になった方も多いと思います。現地での発掘が終わった後、記録された図面や写真類、それから出土した土器や石器などの遺物は整理作業が行われ、発掘調査報告書として記録がまとめられます。こうして、いつからいつまでの遺跡なのか、どのようなムラの姿があったのか、他地域との交流があったのか、地域や日本の歴史の脈絡の中でどう位置づけるかなどなど、発掘された遺跡の全体像が明らかにされます。このような記録保存の作業を終えたホットな情報や生活用品を展示し、最新の考古学的な成果を皆さんにお伝えします。縄文時代の15軒の堅穴住居をはじめ、平安時代にかけてのムラの跡が調査された箕瀬遺跡(飯田市箕瀬町)では、埋甕とよばれる土器が土間に埋められている縄文の住居跡がありました。埋甕は、死産や幼くして死んだ子のなきがらを母親の胎内に見立てた土器に納めたとも、あるいは胎盤を納めて子どもの健やかな成長を祈念したともいわれています。道路建設のために発掘された矢崎遺跡(飯田市上郷別府)では、縄文時代の住居のほか、弥生時代から平安時代の長期にわたる安定したムラの跡が見つかっています。公園整備のため確認調査が行われた鈴岡城跡(飯田市駄科)は、信濃国守護小笠原氏のうち鈴岡小笠原氏が居城としていた城です。二の郭が調査され、堀では中を敵兵が自由に行き来できないようにする施設(小田原の北条氏で有名な障子堀に類するもの)が見つかりました。鈴岡城は武田氏の南信州侵攻により廃城になったとされますが、戦国時代を中心とした陶磁器類や焼けた米などが発掘されています。他に、切石遺跡群(鼎)、富士塚遺跡(大瀬木)、月の木遺跡(川路)など展示予定です。



② 縄文土器(富士塚遺跡)



② 箕瀬遺跡の調査の様子(箕瀬町)

企画展

第7回飯田市藤本四八写真文化賞 受賞作品展 ③ 5/29(土) → 6/13(日)

第7回飯田市藤本四八写真文化賞の受賞者が決定しました。写真文化賞推薦の部には、井上博道さんが選ばれました。井上さんは、京都の龍谷大学で学んだ後入社した産経新聞社で、文化部長であった司馬遼太郎氏の

影響を受けました。新聞社を辞し独立してからは日本の文化、生活を基調とした日本人の心の表現に力を注ぎ、種田山頭火、万葉風景の作品として発表。また、日本文化を代表する仏像、神社仏閣建築など、日本の美を作者の眼で表現した

公募の部(一般)の写真賞には、埼玉県在住の岡田勤さんの「Nature-mind-命の瞬き」が選ばれました。地球環境に対する関心が高まっている中で、昆虫に焦点をあて、生と死の問題を鮮やかに表現した20

点からなる組写真作品です。1枚1枚の表現がすばらしく、環境と命の今日的課題をよく表現しているとして高く評価されました。市民奨励賞には、長野県喬木村在住の筒井政美さんの「いんばいで」が選ばれました。こちらも20点からなる組写真作品で、題名の「いんばいで」は地元のあいさつ言葉。日常生活の状況が1枚1枚によく表現されており、動物・植物の情景も程よく組み込まれた、雰囲気豊かな作品となっています。公募の部(小学生)では、座光寺小学校5年生の

の齊藤大くんの「大火から生き残った歴史」と松尾小学校6年生の三浦幸輝くんの「おんべ」、鼎小学校3年生の高根太朗くんの「燃えるおんべ」、座光寺小学校5年生の大内健瑠くんの「ぼくたち、カメラマン」が選ばれました。公募の部(高校生)では、阿南高校1年生の熊谷翔太さんの「棄てられているものたち」が選ばれました。受賞作品作品展は、東京展を5月20日~5月26日の会期で東京都中央区銀座の「キャノンギャラリー銀座」で、飯田展を5月29日~6月13日の会期で「飯田市美術博物館」でおこないます(小学生・高校生の作品は飯田展のみの展示)。ぜひ会場に足をお運びいただき受賞作品をご鑑賞ください。



③ 秋の正倉院 ©井上博道(J.P.S.)



③ 室生寺 十一面観音 ©井上博道(J.P.S.)



③ 「Nature-mind」 岡田勤



③ 「いんばいで」 筒井政美



表紙の作品 / 「五彩人物図四方形盤」17c 中本館蔵(綿半野原コレクション)

中国明時代の磁器生産を担ったのは景德鎮窯でした。白磁に絵付けされた「青花」「五彩」が発展し、その技術は全世界に伝えられていきました。明代末期に至って、南京赤絵と呼ばれる素朴な作風の「五彩」が登場しましたが、これらは有田焼の柿右衛門様式などに影響を与えました。